

令和6年度 東京都立深沢高等学校経営報告

令和7年3月31日

1 今年度の取組と自己評価、具体的な課題

【学習指導】

(1) 今年度の目標

- ア 生徒理解に努め、学習状況を把握し、指導方法を工夫するため、積極的に ICT 機器を活用して個別最適な学びを实践
- イ 「年間授業計画」に基づき計画的な授業実施、主体的な学習意欲の喚起、可能性及び能力の最大限の伸長
- ウ 探究的な学習や体験活動等を工夫し、深い学びの実現、協働的な学びの場の充実

(2) 今年度の結果

ア 生徒の主体的な学習への取組み評価 80%以上	→	80%
イ 1、2年生の週末自宅学習時間 2時間以上 80%以上	→	61%
ウ 生徒の授業満足度 90%以上	→	86%
エ 保護者の学校満足度 90%以上	→	85%
オ 国際教育活動参加率 50%以上	→	5%

(3) 今年度の具体的な取組と課題について

- ア データや ICT 機器を活用して、学習状況の把握や生徒理解に努め、一人ひとりにあった授業を展開する。
 - 全教員が ICT 機器を適切に活用しながら教科指導を実施した。生徒の活用促進については、強化策が必要であった。
- イ 生徒が振り返りシートや授業評価によって自己を省み、授業に触発されながら主体的に学びを進めていけるように、教職員と生徒の相互作用を進める。
 - 振り返りシートの活用は習慣化できた。授業評価は年1回から各学期実施に改善し、授業改善の仕組みを早めることで、主体的な学びを促進させた。
- ウ 授業改善に向けて、相互授業見学を実施し、必須の研修やニーズに応じた研修へ参加するとともに適時の授業評価を繰り返す。
 - 授業観察シートを作成し、観察後はリフレクションを実施することで、授業力向上を図った。
- エ 年間授業計画に基づき計画的に授業を実施し、主体的な学習意欲を喚起する。
 - 年間授業計画に基づき計画的に授業を実施することで、教科等横断授業など、他教科と連携した授業を実施することができた。
- オ 週末課題、講習等、生徒が学ぶ機会を用意し、学習時間の確保に努める。
 - 週末課題は、校内での学習まで実施方法を拡大し提出率の向上を図った。夏季講習は昨年比 3.3 倍の 33 講座開設。朝自習室を開設し、学校における学習の機会を増やした。
- カ 国際教育の推進、検定や資格取得等を促し、自主性を涵養する。
 - 国際教育は遅々として進まず課題である。国際教育活動を進めるため、まちなか留学を実施し、ホスト・ファミリーの家庭において交流を深める機会を設定した。

キ ニーズに応じた研修を計画し、とくに ICT の活用や DX 化に関する研修を増やす。
 オンライン研修「Find! アクティブラーナー」等を活用し、自主的な勉強会等を開く。→ オンライン研修は適時参加する形式で各自実施した。哲学対話研修を実施したが有効な研修であった。

【進路指導】

(1) 今年度の目標

- ア 3年間を見通した系統的なキャリア教育計画の実践、社会的・職業的自立意識の醸成
- イ 適時・適切に進路情報を提供
- ウ 進路希望を実現するため、生徒一人一人に最適なデジタル技術を活用した指導内容の設定

(2) 今年度の結果

- ア 進路決定率 100% → 95%
- イ 進路指導満足度 90%以上 → 91%
- ウ インターンシップ及びボランティア活動参加率 100% → 70%

(3) 今年度の具体的な取組と課題について

- ア 第3学年進路活動状況について
 進路決定者 94 名 (進路決定率 95%)
 大学 48、短期大学 2、専門学校等 29、就職 12、その他 3、未定 5 (単位: 人)

イ 1 学校行事等について

		1 学年	2 学年	3 学年
1 学期	4 月	基礎力診断テスト	基礎力診断テスト	基礎力診断テスト
	5 月			保護者会 (資金について)
	6 月	基礎力診断テスト 分析会	保護者会 (資金について)	第1回入試研究会・就職ガイダンス
	7 月	マナー講座 職業的・自立的支援プログラム	適性検査 ディズニールランド訪問	大学・短大・専門等説明会
2 学期	8 月	ジョブキャンプ		第2・3回入試研究会・就職ガイダンス 面接講習
	9 月	基礎力診断テスト	基礎力診断テスト	
	10 月	基礎力診断テスト分析会・デジタルドリル説明会	基礎力診断テスト分析会・デジタルドリル説明会	
3	11 月	職業人講和	大学等出張講義	
	3 月	深沢進路の日	深沢進路の日	

学 期		卒業生講和	卒業生講和	
--------	--	-------	-------	--

※5月に教員対象専門学校説明会及び面接指導研修を実施。

ウ 1年生全員を対象としたジョブキャンプにおいて、様々な職業の職場を訪問し、体験活動を実施し、進路意識の向上につなげた。

エ 「深沢進路の日」について

→「深沢進路の日」を実施し、生徒の進学に対する意識醸成を促すことができた。
第3学年の担任団と進路指導部が卒業生一人一人の進路先候補を話し合い、
上級学年からの進路アドバイスの会を開くことができた。

オ キャリア教育計画

「3年間を見通したキャリア教育計画」に基づき計画的、系統的な進路指導を
学年ごとに展開できた。スキルアップ推進校としてジョブキャンプ(インターン
シップ)を外部機関と連携して実施することができた。総合的な探究の活動を中心
に、キャリア教育を推進させていくことができなかった。また、長年連携して
いただいているロータリークラブとの連携方法の改善策を検討した。

【生活指導・特別活動・部活動】

(1) 今年度の目標

《生活指導》

- ア 健康かつ安全な学校生活を送るための環境整備及び生徒の自己管理能力の育成
- イ お互いの人権を尊重し、他者を思いやる心の育成
- ウ 自立自立と規律の両立に向けた支援の実施

《特別活動・部活動》

- ア 多様な学校行事や部活動が生徒主体となるように支援し、よりよくしていく
ための課題意識の育成
- イ 集団活動を工夫し生徒の社会性の育成
- ウ 次代を担う人材として、活気ある学校生活となるような支援の実施

(2) 今年度の結果

- ア コンディションレポートの活用率 100% → 2%
- イ 部活動加入率 80%以上 → 57%
- ウ 各行事の自主的な参加率 90%以上 → 88%
- エ 安全意識の向上 90%以上 → 88%

(3) 今年度の具体的な取組と課題について

ア コンディションレポートの活用

→ 企画調整会議や職員連絡会で活用方法の報告を実施した。
学期に一回(計3回)、コンディションレポート利活用週間を実施したが、活
用の浸透にはつながらなかった。校内体制の再構築、教員・生徒向けの研修、

入力の習慣化にむけた環境作りが不足していた。

イ 部活動について

- 加入促進活動が遅れたこともあり加入率が下がったことから、生徒会部活動担当から生徒への呼びかけを実施した。また、生徒総会において各部活の報告の際に部員募集の案内を行ったが、加入率は向上しなかった。入学直後の広報活動が弱く、部活動の加入率を向上させ、生徒の自治活動の機会を増やすためサークル活動や研究会の発足及び検討を開始した。

ウ 学校行事

- ① 体育祭 → クラスで団結できる団体競技中心へ競技の内容を見直した。
- ② 文化祭 → 安全確保のためチケット発行の基準を変更したことで来校者は減少した。
- ③ 合唱コンクール → 3月に世田谷区民会館で実施
- ④ 生徒会活動 → 学校説明会等に積極的に参加し、学校のアピールに貢献した。また、スマートフォンの使用に関する実証実験に取り組み、校則に関する話し合いなどを実施した。また、生徒会誌「清明」の作成および編集を行った。
令和8年度に向けて、行事内容の精査を行う。マラソン大会は発展的に解消することにした。

エ 防災・安全教育に関する活動

- 世田谷区と協力した防災訓練を実施した。3月に普通救命講習を実施した。自転車ヘルメット着用の常時指導及び警察と連携した交通安全教室を実施した。
- 防災訓練やセーフティ教室等において警察や消防署と連携実施した。
ヘルメットの正しい着用に向けて指導の継続が必要である。

オ SNSについて

- SNSの安全な使い方等の学習を充実させ、安全な学校生活が送れるように指導した。

【学校経営・地域連携】

(1) 今年度の目標

《学校経営》

- ア 経営方針の徹底による組織的対応力の更なる向上
- イ 教育公務員としての高い使命感・倫理観をもち、服務規律を遵守するとともに、協働意識を向上させ、働きがいやライフ・ワーク・バランスにつながるような業務の適切な遂行
- ウ 経営企画室における業務の適正化を図り、円滑な執行管理
- エ DX化のより一層の推進

《地域連携》

- ア 地域等との連携や交流の積極的な推進
- イ 大学等との連携強化
- ウ 地域と自他の生命尊重を基盤とした生徒の健全育成推進

(2) 今年度の結果

《学校経営》

- ア 教職員の在校時間の適切な管理 超過勤務時間前年度比 10%減 → 16%増
- イ 年間年休取得 15 日 → 14 日
- ウ 一般需用費センター執行割合 70%以上 → 53.3%
- エ 服務事故 0 件 → 1 件

《地域連携》

- ア 地域等との連携評価 90%以上 → 90%
- イ キャリア教育満足度 90%以上 → 88%

(3) 今年度の具体的な取組と課題について

《学校経営》

- ア 企画調整会議を機能させ、敏速な経営方針の徹底を図り、効率的な学校運営を実現した。
- イ 教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスを意識し、適宜、産業医との面接を実施しつつ、効率的な働き方を目指した。また、年間の休暇取得率も全体的に向上した。
- ウ 経営参画ガイドラインに則り、経営企画室における業務執行の適正化と充実化を図ることができた。
- エ 服務事故の研修を年間 6 回以上実施。教職員間のコミュニケーションが円滑にできるように環境整備してきた。

《地域連携》

- ア 生徒会や部活動の生徒が中心になり、地元商店街でのイベント（桜新町さくらまつり、桜新町ねぶたまつり）への参加や、地域清掃、地域ボランティアを実施した。
- イ 「深沢進路の日」では 1・2 学年に対し、15 校 16 講座の大学等の模擬授業で進路学習を実施し、大学等との連携を深めることができた。
- ウ 近隣中学校へ出向いて「出前授業」および中学校での説明会を実施し、連携を深めることができた。

【募集対策・広報】

(1) 今年度の目標

- ア 保護者、中学生やその保護者、地域の方々における本校の教育活動への理解促進
- イ 「さんだる相談会」に参加して様々な地域に深沢高校の理解を浸透させていく。
- ウ 学校生活の良さが伝わるように、日常の教育活動を積極的に発信する。
- エ 学校説明会や中学校及び塾訪問等を組織的に実施する。

(2) 今年度の結果

- ア 中学校・塾等への訪問校数 150 校以上 → 375 回（延べ）
- イ 学校説明会への来校者数 600 人以上 → 1,101 名
- ウ ホームページの更新 300 回以上 → 985 回

(3) 今年度の具体的な取組と課題について

ア 中学校・塾等への訪問校数

- 1年生の母校訪問 40校
 - 教員による中学校訪問 68校
 - 管理職による塾等への訪問 20校 128校（延べ）
- Forms を活用したアンケートで通っていた塾をデータベース化

イ 学校説明会への来校者数

- LOGO フォームを活用した事前予約制に変更し個人情報管理を適切に行った。部活動体験・見学との連携、生徒会、部活動生徒、広報委員を活用した学校案内・校内ツアー、校内ツアー資料のデジタル化（PowerPoint とタブレット）を推進した。開放的で居心地の良い図書室を用いた会場を設定した。和太鼓部による演奏、男子バレーボール部によるデモンストレーションを実施した。毎回の PDCA サイクルによる実施計画の見直しと改善を実施した。

ウ ホームページの更新

- ホームページの更新体制を見直し、更新頻度の拡充、ページの書き換え及び見直しを実施した。

2. 次年度以降の課題と対応策

（1）学習指導

- ・ICT 機器の効果的な活用を推進させるために、日々の学習や宿題における活用、教科横断等の取組みを加速させ、体験型の授業を増やすなど、使用する機会を工夫し、よりよい取組み方法を模索する。また、生徒一人一人の個別最適な学びの実現に向けて、AI を活用した学習を取り入れる。
- ・オンライン授業を充実させるため、非常時等に学校に登校できない期間のオンタイムでの学習指導を確立する。
- ・「考えさせる授業」をさらに発展させ、学力の向上を目指すと同時に、個に応じた学び直し学習の場も設定する。また、自学自習を支援する。
- ・哲学対話を導入し、考え方を鍛え、多様性を認め合いながら学びを深める。
- ・学習意欲を高めるため、教科指導を工夫し、教科のおもしろさ、学びの楽しさを深める。
- ・探究的な学習は、キャリア教育を踏まえた上、自己理解から、社会課題の設定とその解決策のまとめ、発表へとつなげた学習として実施する。また、各分野の専門家を講師として招聘し、専門性の高い体験活動を拡充する。
- ・英語検定は全員受検とし、AI を活用した英語教育を実施する。

（2）進路指導

- ・「キャリア教育」全体を見直し、探究を中心とした組織的かつ系統立てた取り組みとして充実を図り、高次の目標を実現した進路決定につなげる。
- ・OB による説明会及び相談会を実施する。
- ・スキルアップ推進校として各事業が充実できるよう、外部連携を加速させる。
- ・地域教育支援部の事業「社会的・職業的自立支援教育プログラム」を活用し、社会的・職業的自立を図る教育を推進していく。模試を有効活用し、組織的に分析を行い進路指導に結び付ける。

- ・インターンシップ活動や実施方法を見直し、より一層効果的な内容へと改善する。

(3) 生活指導・特別活動・部活動

- ・人権意識を醸成させ、規範意識と社会貢献を重視し、地域からの信頼に応える人材を育成していく。また、困難な課題を抱える生徒に対し外部機関との連携を重視するとともに、組織的に対応する体制を確立させる。
- ・生徒会活動を一層活性化させるため、学校行事等の運営を通じた丁寧な指導を行う。
- ・特別活動等を通じて生徒の主体性を育成し、生徒の帰属意識を高める。
- ・部活動の加入率を高め、自治活動の場を増やすとともに、部活動指導員の適切な活用を図りつつ、「部活動ガイドライン」に則り生徒の健全育成に努め、教職員の「ライフ・ワーク・バランス」を重視する。

(4) 学校経営・地域連携

- ・企画調整会議及び教務部・研究開発部を学校経営の中心に置き、複数での協働業務遂行を継続させ、改編に向けた取り組みを組織的に進め、安定した学校運営を行う。
- ・適切な生徒対応、服務規律の厳正・徹底、情報資産の厳密な管理、情報の共有化と会議の効率化、協働体制の拡充、勤務体制の確保、産業医面談と健康相談を必要に応じて実施する。
- ・適切かつ迅速な業務執行、計画的な事務執行により予算を有効活用する。
- ・対面での調整を重視しつつ、生徒一人一台端末の利用実績向上、デジタル技術の積極活用等ハイブリッドな校内業務遂行に移行する。
- ・ICT活用及びDXに関する研修を随時実施し、指導力及び知識の向上を図る。

(5) 募集対策・広報

- ・ホームページを中心に本校の取組みを常時発信し、説明会及び相談会を実施しながら保護者、中学生、地域、塾等に対面で情報提供を行う。
- ・改編に関する情報は適時適切に伝えつつ特色を明確にした募集活動を実施していく。
- ・近隣の大学、高等学校、中学校、小学校、保育園等と学期に複数回、交流を重ね、本校の教育活動の地域連携及び普及に努める。
- ・学力向上として基礎学力の強化を図る。特にDXやAI等を適切に活用しつつ、教科のおもしろさ、学ぶ楽しさを知ることができる授業を発信していく。